

DISCLOSURE

2026

アニコム損害保険の現状

どうぶつの未来のために

日頃より、アニコム損害保険をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社の経営方針・事業概況・財務状況などについて皆様にご理解いただきたく、
「アニコム損害保険の現状 2026」を発行いたしました。

本誌が、当社をご理解いただく一助として、皆様のお役に立てれば幸いに存じます。

※本誌は「保険業法第111条」および「同施行規則第59条の2及び第59条の3」に基づいて作成したディスクロージャー誌
(保険会社に係る業務及び財産の状況に関する説明書類)です。

アニコムグループ理念体系

グループ理念体系は、経営の最上位概念であり、「パーパス（存在意義）、ビジョン（経営理念）、ミッション（企業使命）、クレド（行動指針）」から構成されています。

グループ理念体系や理念のもと、中期経営計画をはじめとした経営戦略を実行し、
経済的価値と社会的価値の創造を実現してまいります。

パーパス（存在意義）

世界中に「無償の愛」を伝え、
平和を取り戻し、維持発展させる。

ビジョン（経営理念）

ani + communication = ∞
(命) (相互理解) (無限大)

アニコムグループは、
それぞれの命が持つ個性の違いを互いに尊重しあい、
分業協力することで、世界中に「ありがとう」を拡大します。

ミッション（企業使命）

- ①戦争抑止、平和の回復・維持発展に資する
行動をペット業界として行う使命
- ②社会発展とペット業界発展が同調した
サステナブルな業界へ変革させる使命
- ③高齢者・障がい者・子ども・社会を
サポートする使命

クレド（行動指針）

1. オープン志向

オープンで、「対話のできる法人」を目指します。組織が大きくなっても、お客様やステークホルダーの皆様の声が、法人のすみずみまで届くよう努力し、お客様やステークホルダーの皆様から「見える」「話せる」と実感していただける「対話のできる法人グループ」を目指します。

2. マーケットアウト志向

常にお客様の視点に立って、新しい価値の創造に努めます。常にお客様の視点に立ち、お客様の求めるサービスを創り出す、マーケットアウト(お客様の真のニーズにお応えすること)を意識した経営を徹底し、お客様の願いを実現するとともに、新しい価値を創造することに努めます。

3. ロールプレイング志向

個々に与えられた役割(ロール)を最高に演じる(プレイング)ことで、個人と組織の飛躍的成長を促進します。
個々と組織の役割を明確にし、その役割を役者のごとく最高に演じることで、何事にも果敢に挑戦し続け、常に新たなスキルを吸収し、飛躍的な成長を促進させる経営を実践します。



CONTENTS

シンボルマーク



「はっぴ」のシンボルマークは、4枚のハート型の「はっぴ」で構成されています。ハート型でアニコムグループの理念である「命」を連想させるとともに、4枚の「はっぴ」をつなぐことで、分業協力する「命」の姿を表しています。色は、「命」をイメージする植物の芽の色、アニコムライトグリーンを配しています。

アニコム損保の経営方針

私たちアニコム損保は、ペット保険を通じて、
飼い主の皆様の「涙」を減らし、「笑顔」を生みだす
保険会社を目指します。

家族であるどうぶつがケガや病気をして喜ぶ飼い主はいません。つまり、ケガや病気で保険金をお受け取りになられることは、飼い主の皆様が『涙』を流していることを意味します。

アニコム損保では、保険金支払データの分析を通じて、どうぶつがケガをしない、病気にならないための情報の提供など、飼い主の皆様が『涙』を減らし、『笑顔』を生みだす保険会社を目指して、グループをあげてケガや病気の予防促進に取り組んでまいります。

- 2 会社概要
沿革
- 3 トップメッセージ
- 4 トピックス
- 8 社会貢献活動
- 10 代表的な経営指標

I 経営について

- 15 アニコムグループの概要
- 16 2025年度の事業概況
- 19 コーポレート・ガバナンスの状況
- 19 コーポレート・ガバナンス体制
- 21 反社会的勢力の排除
- 22 内部統制システム
- 24 コンプライアンス
- 24 コンプライアンス体制
- 25 勧誘方針
- 26 リスク管理
- 31 個人情報の保護
- 37 特定個人情報保護基本方針
- 38 利益相反取引の管理
- 38 利益相反管理基本方針
- 39 募集制度
- 41 お客様本位の業務運営方針
- 44 「お客様の声」への対応

II 業務について

- 52 保険のしくみ
- 52 約款
- 53 取扱商品
- 55 保険金のお支払い
- 58 各種サービス

III コーポレートデータ

- 62 株式の状況等
- 63 会社の組織
- 64 役員の状況
- 66 会計監査人の状況
- 66 従業員の状況等

IV 業績データ

- 69 主要な業務に関する事項
直近の5事業年度における主要な業務の
状況を示す指標
- 70 業務の状況を示す指標
- 81 財産の状況
計算書類
- 87 保険業法に基づく債権
元本補填契約のある信託に係る債権の状況
- 88 単体ベースのソルベンシー・マージン比率
- 99 時価情報
- 101 会計監査及び代表者による財務諸表に
関する確認書
- 102 損害保険用語の解説

会社概要

(2026年7月1日現在)

社 名（英 文 社 名）	アニコム損害保険株式会社（Anicom Insurance, Inc.）
代 表 取 締 役	野田 真吾
設 立 年 月 日	2006年1月26日 （アニコム インシュアランス プランニング株式会社として設立）
開 業 日	2008年1月10日
本 社 所 在 地	〒160-8352 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
電 話 番 号	03-5348-3777
資 本 金	6,550百万円
従 業 員 数	493名（2026年3月31日現在）
株 主	アニコム ホールディングス株式会社（100%）
事 業 内 容	損害保険業

沿革

2006年 1 月	アニコム インシュアランス プランニング株式会社設立
2007年10月	資本金を35億円とする（資本準備金6億1,400万円）
2007年12月	金融庁より損害保険業免許取得 アニコム損害保険株式会社へ商号変更
2008年 1 月	ペット保険「どうぶつ健保」販売開始 （4月1日以降保険責任開始契約）
2008年 4 月	ペット保険「どうぶつ健保」補償開始
2009年 3 月	12億円増資し、資本金41億円に（資本準備金12億1,400万円）
2010年 3 月	親会社のアニコム ホールディングス株式会社が 東京証券取引所マザーズ市場へ上場 5億円増資し、資本金43億5,000万円に（資本準備金14億6,400万円）
2012年 3 月	7億円増資し、資本金47億円に（資本準備金18億1,400万円）
2013年 9 月	7億円増資し、資本金50億5,000万円に（資本準備金21億6,400万円）
2014年 6 月	アニコム ホールディングス株式会社が 東京証券取引所市場第一部へ市場変更
2015年10月	本社を新宿区西新宿へ移転
2018年10月	30億円増資し、資本金65億5,000万円に（資本準備金36億6,400万円）
2022年 4 月	アニコム ホールディングス株式会社が東証の市場区分の 見直しにより、プライム市場に移行

トップメッセージ

日頃より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は「涙を減らし、笑顔を生みだす保険会社」を経営方針に掲げ、ペット保険の普及に努めております。おかげさまで、2026年3月末時点の保有契約は139万2,772件、対応動物病院様は7,044病院、保険金の年間お支払件数は約488万件となりました。

弊社を支えてくださるご契約者、動物病院の皆様、代理店の皆様をはじめ、すべての方々に心より御礼申し上げます。

2025年度は、競争環境が大きく変化するなか、ペット保険のリーディングカンパニーとして事業基盤をさらに拡大してまいりました。住友生命保険相互会社との業務提携やソニー損害保険株式会社との共同保険を開始するなど販売チャネルを広げるとともに、腸内フローラ測定サービス「どうぶつ健活」をはじめ、未病を捉えて健康を支える予防領域への取り組みも引き続き推進しています。

その他、2025年7月で創業25周年を迎えたアニコムグループ全体として、シナジー創出をさらに強化しました。ブリーディングサポートやマッチングサービス事業、健診・口腔ケア・腸内ケア商材の拡販を推進。さらに、2025年10月には「JARVISどうぶつ医療センター Tokyo」を開業し、“川上”=産まれる前から、“川中”=日々の暮らし、“川下”=高度獣医療まで、どうぶつのライフステージ全体を支える取り組みを進めています。

今後も、私たちの「家族」であるどうぶつの安心を支えるペット保険を「当たり前」にすべく、ペット保険の普及と進化に努めながら、どうぶつと飼い主の皆様が、安心して健康に暮らせる社会作りを支えるべく、アニコムグループの役職員一丸となって尽力してまいります。

引き続き、より一層のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2026年7月

アニコム損害保険株式会社
代表取締役

野田 真 吾



トピックス

■「Insurance Asia Awards 2025」で2部門受賞

アジアの保険業界を対象とした国際的アワード「Insurance Asia Awards 2025」において2部門を受賞しました。

「Insurance Product Innovation of the Year - Japan」では、腸内フローラ測定サービス「どうぶつ健活」を通じた予防型サービスの取り組みが評価されました。また、「Digital Insurance Initiative of the Year - Japan」では、「どうぶつ健康保険証」による窓口精算システムなど、デジタル技術を活用した利便性向上の取り組みが受賞につながりました。

今後も、テクノロジーとデータを活用しながら、新たな顧客価値の創出に取り組んでまいります。



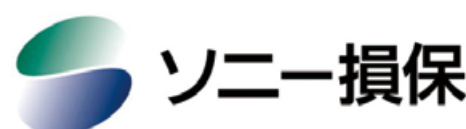
■住友生命がペット保険の販売を開始

2025年7月に住友生命保険相互会社、三井住友海上火災保険株式会社との業務提携を締結。9月から、住友生命の販売マーケットにおいて、アニコム損保のペット保険の販売を開始しました。家族の一員であるペットの存在意義が高まるなか、当社のペット保険の知見と動物病院等とのネットワーク、全国に約3万人の営業職員を抱える住友生命の強固な営業基盤、それを支える三井住友海上の営業網を活かすことで、お客様のニーズに沿った商品やサービスを提供し、ペット保険の普及率をさらに向上させてまいります。



■ソニー損保と共同でペット保険の販売を開始

2025年11月から、ソニー損害保険株式会社との共同保険方式によるペット保険の販売を開始しました。2024年6月に業務提携契約を締結して以降、これまでペット領域における保険商品・ソリューションの開発・提供に向けて取り組んでまいりました。両社がそれぞれの強みを活かしながら連携することで、より多くのお客様へ安心を届ける体制を構築します。



■オリコン顧客満足度®調査でペット保険「猫」部門第1位を獲得！

「2025年 オリコン顧客満足度®調査」において、ペット保険「猫」部門で第1位を獲得しました。あわせて、「保険金・給付金」「窓口精算」「加入・更新手続き」の評価項目でも第1位を獲得。「保険金・給付金」に関しては、9年連続での1位となりました。保険のわかりやすさや利便性に加え、日々の安心につながるサービス提供を通じて、より満足度の高い顧客体験の実現に取り組んでいます。



■「どうぶつ健保」対応病院が全国7,000件を突破

2025年7月に、「どうぶつ健保」の対応病院数が、全国7,000病院を突破しました。

当社グループでは、創業時の2000年から動物病院の窓口で使える「ペットの保険証」をご用意し、飼い主の皆様が自己負担分のみをお支払いいただくことで保険金請求が完了する窓口精算システムを導入しています。窓口精算に対応するペット保険において、対応病院数7,000は日本最多※となります。これは、多くの飼い主の皆様、そして動物病院様に、アニコム損保のペット保険をご支持いただいている結果であると考えています。

※当社調べ



■AIで笑顔度を判定する『世界えがお博覧会』公開

これまで、どうぶつの感情や疾患に関する様々なAI技術の開発を進めてまいりました。特に、“笑顔”を判定するAIは、人間の言葉を話さないどうぶつたちの声に耳を傾けるための大切な手段になると考えています。こうした取り組みの一環として、犬の写真を登録するとAIが笑顔度を判定するサイト『世界えがお博覧会』を公開しました。

『世界えがお博覧会』は世界中で利用が可能で、大阪・関西万博で開催された、大阪ヘルスケアパビリオン主催のペット共生イベントでも紹介されました。これらの活動を通じてどうぶつの笑顔が増え、人も一緒に笑顔になれる世界、人とどうぶつが共に幸せに暮らせる未来を目指しています。

また、大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオンには、アニコムが加盟する一般社団法人日本MA-T工業会が出展。アニコムはペット用MA-T口腔ケアジェルの無料サンプリングを実施しました。



■犬・猫の熱中症週間予報の配信

当社では、飼い主の皆様の適切な対策により「防げる病気」である熱中症を予防するため、2013年から「犬の熱中症週間予報」を開始し、2022年6月からは、「猫の熱中症週間予報」も配信しています。

犬と猫の「熱中症週間予報」は、株式会社ライフビジネスウェザーと当社が独自に開発した熱中症指標をもとに作成しています。犬と猫それぞれの体高や代謝などを考慮した指標と1週間分の気象予報から、全国主要10都市の熱中症注意レベルを「やや注意」「注意」「警戒」「厳重警戒」の4段階に分け、それぞれ犬と猫のイラストで表示します。あわせて保険金請求データやアンケート結果から熱中症が発生する状況などを分析して公開し、予防啓発に努めています。

今後も、熱中症を含めたさまざまな病気に対して飼い主の皆様への知識向上を図り、どうぶつたちが健康に暮らせるよう努めてまいります。



■『家庭どうぶつ白書 2025』発行

アニコムグループでは2010年から、当社のペット保険「どうぶつ健保」の保険金支払い実績、独自に実施したアンケート調査の結果など、家庭どうぶつに関わるさまざまなデータをまとめた『家庭どうぶつ白書』を毎年発行しています。

2025年12月17日に発行した『家庭どうぶつ白書2025』では、どうぶつ種ごとに人気の品種・名前のランキング、年間費用に関するアンケート調査結果など、毎年ご好評いただいているデータに加え、診療費に関するデータ等を拡充して掲載しました。その他にも、高度医療への挑戦やゲノムと遺伝子の研究といった、アニコムグループの最新の取り組みについてもご紹介しています。

表紙の犬や猫のモデルはSNSを通じて公募し、多くの方々に、どうぶつの病気やケガ、その予防に関する情報へ関心を持っていただけるよう取り組んでいます。引き続き、皆さまのお役に立つ情報を提供してまいります。



■「JARVISどうぶつ医療センター Tokyo」開業

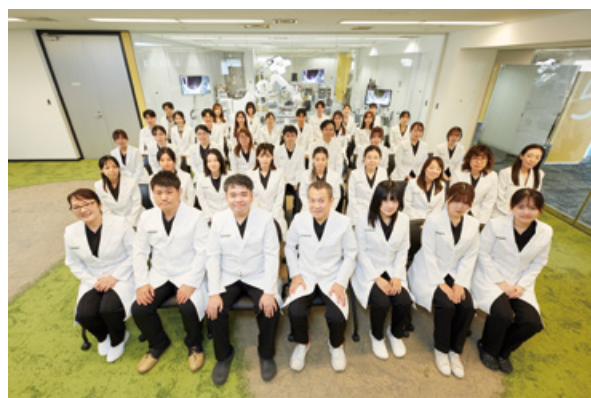
2025年10月、アニコムグループの新たな獣医療拠点として、東京都港区（品川エリア）に「JARVISどうぶつ医療センター Tokyo」が開業しました。高度獣医療と先端テクノロジー、研究開発を融合させた“未来型どうぶつ医療センター”です。

施設内では、整形外科や脳外科、循環器内科などの専門診療に対応するほか、3テスラMRIや320列CT、人工心肺装置など、高度な医療設備を備えています。さらに、夜間救急やリハビリテーションにも対応し、二次診療を中心とした高度医療を支える体制を構築しています。さらに、ロボット支援手術やAI技術などの先端技術も取り入れ、高品質な獣医療の実現を目指しています。

2025年11月には夜間救急診療を開始し、地域の動物病院とも連携しながら、夜間の急な体調変化にも対応できる救急診療体制を整備しました。加えて、遺伝性疾患や先天性異常を抱える保護犬・保護猫を支援するプロジェクトを開始したほか、飼い主様向けの勉強会や情報発信にも取り組んでいます。日々のケアや医療に関する選択肢を広く伝え、飼い主さまが元気なうちから“もしも”に備えられるよう、啓発活動を進めています。

2026年4月には、「JARVISどうぶつ医療センター Tokyo」と連携したペットホテルも開設し、医療の枠を超えた新たなサービス展開も開始しました。

JARVIS Tokyoは、医療、研究、予防、教育、さらには社会課題への取り組みを横断しながら、どうぶつと人がともに健康に暮らせる未来社会の実現を目指す、アニコムグループの新たな挑戦です。



社会貢献活動

アニコムグループでは、ペットが持つ「無償の愛」で「心の発電力」を高めてくれる力を通じてさまざまな社会的課題の解決に貢献し、また豊かな地球環境の維持と全ての生命の幸せを増進させることで、更なる企業価値向上と持続的成長を果たしていくことが存在意義であるにとらえ、グループの理念体系を定めています。この理念体系に基づき、サステナビリティ基本方針を定め、持続可能な社会に向けた取り組みを推進しています。

■どうぶつへの貢献

■PAWプロジェクト

アニコムグループでは、2012年度からグループ会社横断プロジェクト「PAW (Project of Animal Welfare)」を立ち上げ、動物愛護や動物福祉に資する活動を行っています。

動物愛護週間には、埼玉県とのイベントを毎年開催しており、第12回となった2025年度は、「すべてのワンちゃんにちょうどいい距離感を～やさしさで広がるイエローリボン～」をテーマにノベルティを配布しました。

また、11月に開催された「彩の国さいたま 動物愛護フェスティバル2025」に参加し、ご来場された方に「どうぶつクイズ」に挑戦いただいたほか、オリジナル迷子札作りのワークショップを行いました。



■殺処分ゼロ

2023年4月から、三重県多気町の「ani TERRACE」を運営し、飼い主がいらない犬や猫と新しい飼い主をつなげる活動を行っています。2025年度は、犬・猫25頭が新しいご家族のもとに迎えられました。「明るい」「あたたかい」「幸せ」な施設をコンセプトに、多くの方に訪れていただける施設を目指し活動を継続しています。



■人への支援

■自然災害におけるペット救援募金の実施

2025年4月4日から4月30日に行った「ミャンマー大地震のどうぶつ救援募金」を通じて、皆様からいただいた寄付金とアニコムグループ社員からの寄付とあわせて、合計3,111,665円を2025年5月23日にIFAW（国際動物福祉基金）へ寄付いたしました。寄付金は、被災したどうぶつたちや飼い主の皆様のために役立てていただいております。

また、災害時等におけるどうぶつ支援の継続的な取り組みが評価され、IFAWのニュースレター「Insider Update 2nd Edition 2025」において、ご紹介いただきました。



■災害救助犬の育成への協賛

当社は、一般社団法人ジャパンケネルクラブ（JKC）が実施する災害救助犬の育成活動に協賛しています。災害救助犬は、地震などの災害現場において、瓦礫等に埋もれた被災者を捜索し、自衛隊や消防、警察などの救助活動を支援する犬です。

訓練所で専門的な訓練を受け、認定試験に合格した犬のみがJKC災害救助犬として認定され、災害現場等への出動が認められます。これまでに、2011年3月の東日本大震災や2024年1月の能登半島地震などの被災地で活動してきました。

また、災害救助犬は、災害救助犬競技大会や自治体等が主催する防災訓練・イベントなどに参加し、服従訓練や捜索訓練を通じて技能の向上に努めています。



当社独自の取り組みのほか、一般社団法人日本損害保険協会の一員として、事故、災害及び犯罪の防止・軽減にむけて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。同協会での取り組みについては、ウェブサイトをご覧ください。

■事故・災害・犯罪の防止・軽減への取り組み

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/>

■環境問題への取り組み

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/eco/>

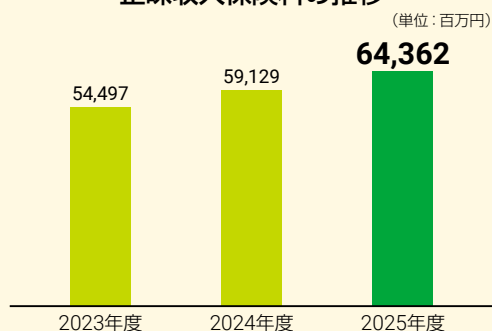
代表的な経営指標

区 分	2023年度	2024年度	2025年度
正味収入保険料	54,497百万円	59,129百万円	64,362百万円
正味損害率	58.0%	58.3%	59.8%
正味事業費率	32.5%	31.3%	32.0%
コンバインド・レシオ	90.5%	89.6%	91.8%
保険引受利益	3,502百万円	3,918百万円	2,960百万円
経常利益	4,069百万円	5,183百万円	4,517百万円
当期純利益	2,864百万円	3,680百万円	3,021百万円
単体ベースのソルベンシー・マージン比率	—	—	260.9%
総資産額	49,786百万円	55,217百万円	63,584百万円
純資産額	20,100百万円	22,094百万円	23,386百万円
その他有価証券評価差額	△1,248百万円	△1,916百万円	△1,608百万円
不良債権の状況	—	—	—

正味収入保険料（対前期比）

643億62百万円（108.8%）

正味収入保険料の推移



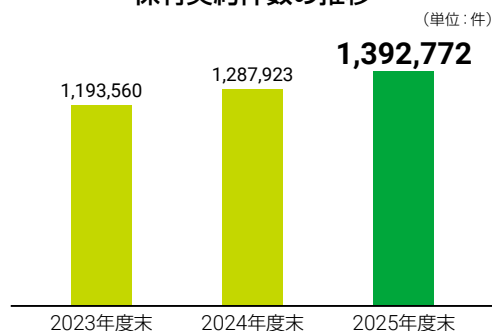
■正味収入保険料

ご契約者から受領した保険料に、保険金支払い負担の平均化・分散化を図るための他の保険会社との再保険契約のやり取りを加減した金額であり、売上規模を示す指標です。

■関連する指標－保有契約件数

ペット保険の保有契約件数は、2026年3月末で前年比10.4万件プラスの139万件となりました。

保有契約件数の推移



■保有契約件数

算出日時点で保険契約が有効に成立している契約の件数です。

正味損害率

59.8%

正味損害率

(単位：%)



2023年度 2024年度 2025年度

■正味損害率

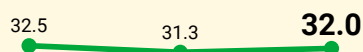
正味収入保険料に対する正味支払保険金と損害調査費との合計額の割合のことで、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。

正味事業費率

32.0%

正味事業費率

(単位：%)



2023年度 2024年度 2025年度

■正味事業費率

正味収入保険料に対する保険事業上の経費の割合のことで、正味損害率と同様に、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。この経費には、営業費及び一般管理費のうち、保険引受に係る金額及び諸手数料が含まれます。

コンバインド・レシオ

91.8%

コンバインド・レシオ

(単位：%)



2023年度 2024年度 2025年度

■コンバインド・レシオ

正味損害率と正味事業費率の合算率で、損害保険会社の保険本業での収益力を示す指標です。一般的にこの指標が低いほど収益性が高いといわれています。

保険引受利益（対前期比）

29億60百万円（75.5%）

保険引受利益

(単位：百万円)



2023年度 2024年度 2025年度

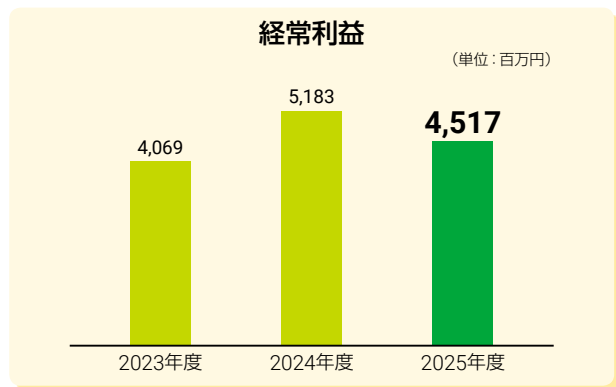
■保険引受利益

正味収入保険料等の保険引受収益から、保険金・損害調査費等の保険引受費用と保険引受に係る営業費及び一般管理費を控除し、その他収支を加減したもので、保険本業での最終的な損益を示すものです。

代表的な経営指標

経常利益（対前期比）

45億17百万円（87.1%）

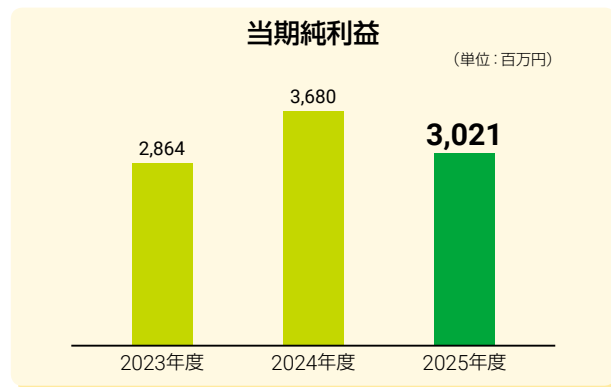


■経常利益

正味収入保険料、利息及び配当金収入、有価証券売却益等の経常収益から、正味支払保険金、有価証券評価損、営業費及び一般管理費等の経常費用を差し引いたもので、経常的に発生する取引から生じた損益を示すものです。

当期純利益（対前期比）

30億21百万円（82.1%）

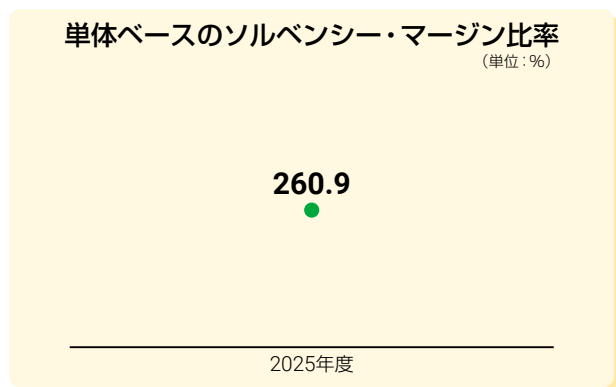


■当期純利益

左記の経常利益に固定資産処分損益や価格変動準備金繰入額等の特別損益、法人税及び住民税、法人税等調整額を加減したもので、事業年度に発生した全取引によって生じた損益を示すものです。

単体ベースのソルベンシー・マージン比率

260.9%



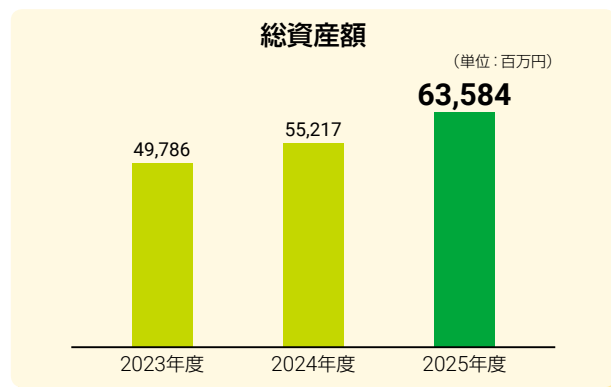
■ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、損害保険会社が通常の予測を超えるリスクに対して、どれだけの支払余力（そなえ）を持っているかを示す重要な指標です。

この比率が100%以上あれば、その損害保険会社は必要な備えができていて一定の健全性が確保されていると評価されます。

総資産額

635億84百万円

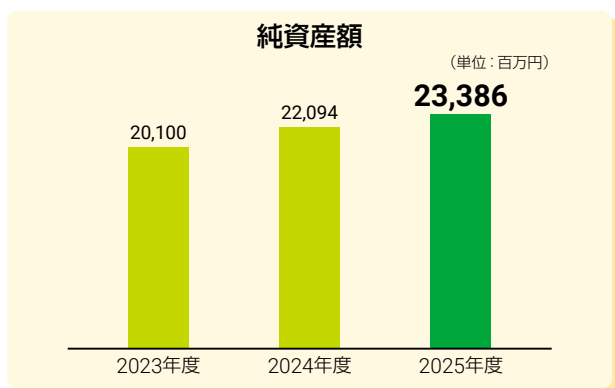


■総資産額

保険会社が保有する資産の総額で、具体的には貸借対照表上の「資産の部合計」です。保険会社の資産規模を示すものです。

純資産額

233億86百万円

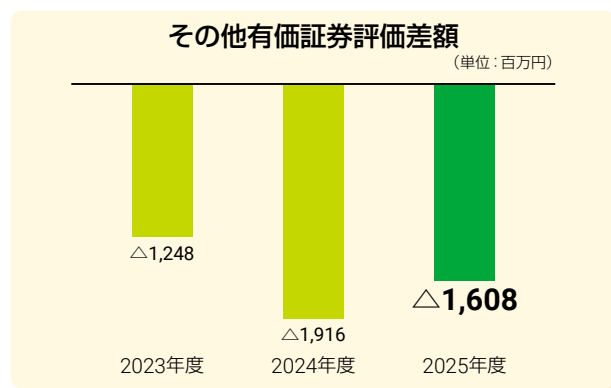


■純資産額

総資産額から、責任準備金等の負債額を控除したもので、具体的には貸借対照表上の「純資産の部合計」です。保険会社の担保力を示すものです。

その他有価証券評価差額

△1,608百万円



■その他有価証券評価差額

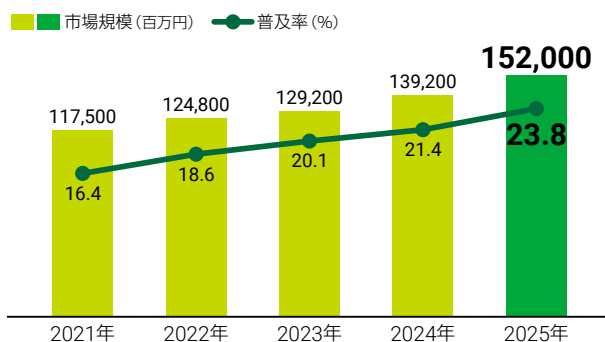
保有有価証券等に占める「その他有価証券」の時価評価後の金額と時価評価前の金額の差額を指します。財務諸表上は、この評価差額から税金相当額を控除した金額を、貸借対照表の純資産の部に「その他有価証券評価差額金」として計上しています。

■関連する指標ーペット保険普及率

ペット保険を扱う会社は計20社あり、日本国内の普及率は、23.8%と順調に伸長しています。

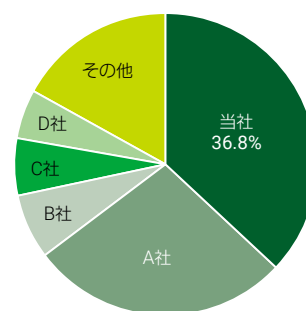
当社は、人の健康保険制度と同様に、対応動物病院で利用できる「窓口精算システム」や、お気に入りのペットの写真がプリントされた「どうぶつ健康保険証」等にご支持をいただき、ペット保険シェアNo.1を維持し続けています。

ペット保険市場規模の推移 (※)



※株式会社富士経済「2026年 ペット関連市場マーケティング総覧」調査
普及率 ペットフード協会令和7年全国犬猫飼育実態調査より算出

2025年マーケットシェア (※)



<保有契約件数ベース>